

# 岩本ゼミナール機関誌

第6号

2001年度版

京都大学経済学部

岩本武和研究室

# 岩本ゼミナール機関誌

第6号

2001年度版

京都大学経済学部

岩本武和研究室

# 岩本ゼミ機関誌第6号（2001年度版）

## 目次

I	はじめに	岩本 武和	2
II	ゼミ単位取得論文		
	金融自由化と経済発展	ヴェン サムナン	4
	法と経済学	清水 洋輔	13
	国際経済協調体制に関する一考察	ネメフバヤル エンフバヤル	30
	FOMCがマーケットに与える影響に関する考察	藤中 智章	34
	地域経済統合における一考察	藤中 康生	46
	我が国の資産担保證券市場の現状と今後の展望	舟橋 悠紀	58
III	3回生年間活動報告及びインゼミ報告		
	2001年度岩本ゼミ活動報告書	城山 卓也	73
	インゼミ報告 VS 高経矢野ゼミ	熊野 聖史	76
	VS 阪大阿部ゼミ 一橋石川ゼミ	熊野 聖史	79
	4大学合同ゼミナール	大塚 沙羅	82
IV	特別寄稿		
	国際資本移動と為替レート制度	岩本 武和	86
	日本のGATT仮加入とカナダ	柴田 茂紀	112
	双子の危機と国際的な最後の貸し手	藤嶋 正信	120
V	先輩からのお言葉		149
VI	2000年度ゼミ決算報告	舟橋 悠紀	154
VII	OB・OGの方へ	藤中 康生	155
VIII	ゼミ生の素顔		156
VIII	編集後記	藤中 康生	158

# OB・OGの方へ

文責 藤中 康生

## ◎ メーリングリスト及びホームページについて

既に多くの方が登録され、結構(?)頻繁に活用されているメーリングリストですが、まだ未登録の方、御存知でない方がいらっしゃいましたら、8期生森本 e00x2204@ip.media.kyoto-u.ac.jp までご連絡下さい。投稿先は、aotake@m1-cl.infoseek.co.jp です。

また、巻頭で岩本先生も言われているように、先日ゼミのホームページが立ち上がりました。(藤嶋さんに拍手!)メーリングリストに加えて、ゼミ内の親交を深めるのに役立ってくれば、と思います。URLは、<http://www.geocities.co.jp/Collegelife-Library/3251/>です。従来この機関誌に載せていた連絡事項(青竹会・住所録など)もこれからはweb上でお知らせすることも多くなるかもしれませんので、たまにチェックをお願いします。また、機関誌に関するアドバイス・要望、ゼミ全体に対するご意見などがありましたら、掲示板にどんどん書き込んで下さい。よろしくお願ひします。

## ◎ 寄付金について

2001年度も多額の寄付金を頂き、本当にありがとうございました。私たち現役ゼミ生が毎年いくつものインゼミをできるのも、機関誌という形でゼミでの記録を残すことができるのも、全て先輩方の寄付金があればこそです。現役ゼミ生を代表して、お礼申し上げます。

2002年度も、改めて寄付金を募りたいと思います。先輩方には一人一口7000円の寄付をお願いします。振込先は、以下のところです。

みずほ銀行 百万遍支店 普通預金

口座番号 476-2003967

京都大学経済学部岩本ゼミナール 岩本武和 様

ただ、先生も書いておられるように、機関誌をweb上に全てアップするようになれば、ゼミ運営にかかるコストも大幅に削減できると思います。そうなると、寄付金額をもう少し抑えられるかも……また追ってご連絡いたします。

## ◎ 青竹会について

今年度は青竹会開催の年です。例年通り、9月の敬老の日に行われる予定ですが、詳しいことは追ってご連絡いたします。皆様と会えるのを楽しみにしております。

## 編集後記

只今3月13日。私の不手際により本当にギリギリになってしまいましたが、今年もなんとか機関誌を発行することができ、ホット胸をなで下ろしています。今回は、先生のアドバイスを受けて論文の形式をできるだけ統一してみましたが、いかがだったでしょうか。個人的には、2段組は見やすいけれど少し書きにくかったかな、と・・・ML、HPなどで感想などを聞かせてもらえるとありがたいです。前ページにも書きましたが、先輩方のご意見・アドバイスもできる限り反映させていきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

機関誌を編集しながら、岩本ゼミで過ごしてきた3年間を振り返りました。藤中君が二人いたため2号と呼ばれた(今もかな?)こと、インゼミの準備で連日連夜研究室で先輩や後輩と共に奮闘したこと・衝突したこと、インゼミで勝ったこと・負けたこと、ソンプレロでペロンペロンに酔っぱらってしまったこと、ゼミ長として他では得られない経験をたくさんさせてもらえたこと、先生が一時期不在になってしまったこと(笑)、そして、個性豊かな素晴らしい人たちにたくさん出会えたこと。1回生の時にゼミ見学をせずに、半ば「勘」でこのゼミに決めた私ですが、このゼミに入れて本当に良かったと思います。

2年前の新年会で、「新ゼミ長の抱負」として私は確かこのようなことを述べました。「歴代のゼミ長に比べてまだまだ未熟な部分もあると思いますが、自分なりにゼミを良くしようと頑張りたいと思います。」と。その目的が客観的に見て達成されたかどうか甚だ心許ないですが、私がしてきたことが、多少なりとも皆さんに良い影響を与えることができているのであればものすごく幸せです。こんな頼りない私についてきてくれた同期の皆、後輩の皆、本当にどうもありがとうございます。

この4月からは9期生が靴脱君を中心として、合宿・インゼミ等、もはや「伝統」となったゼミの行事をこなしていくことでしょう。このゼミでは、知識だけではなくて、その他有形無形のモノをたくさん得られる場所だと思います。有意義な時間を過ごして下さい。

最後になりましたが、岩本先生、3年間本当にどうもありがとうございました。ゼミ時間中だけに限らずたくさんのことを教えて頂きました。また、いつも温かく見守って下さった柴田さん、藤嶋さん、この機関誌を読んでおられる諸先輩方、同期のみんな、本当にどうもありがとうございました。今年の、いや、2年後も4年後もそれ以降も、青竹会で再会できるのを楽しみにしております。

2002年3月13日

藤中 康生

岩本ゼミナール機関誌 第6号  
2001年度版

2002年3月25日発行  
京都大学経済学部  
岩本武和研究室

禁無断転載